



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身のkikuさんがつづるふるさとエッセイ

## — あいなん音故地新 —

まぶしき二十代

ゴールデンウィークが明けた頃、剣道の後輩と一緒にご飯を食べる機会があった。後輩といっても彼らは20代で、そのうちのひとりには私がお世話になっている先輩の息子さん。二十も離れた人とお酒を飲んでも何も面白くないんじゃないかと、はじめは遠慮しようと思ったけど、めったにないことやし、せっかくならと仕事終わりに新宿で合流した。嫌な顔ひとつせず付き合ってくれる後輩たち。それもそうか、剣道って小さい頃からさまざまな年齢の人たちと稽古する。そうしてうちに自然とコミュニケーション能力は養われる。彼らからしたらあの日のあの席も何の違和感もなかったはず。

それにしても若いっていい。勢いがある。自分の知っとることがすべてで、自分が正しくて、世界の中心に自分がおる。自信と可能性に満ちて、まっすぐで、怖いものなし。彼らがまぶしくて、うらやましくて、懐かしかった。そういう気持ちを持った愛南町出身の20代がおる、ということがなによりもうれしかった。きっとこれからいろんな経験をして、今のままではおれんときもくるやろう。それでも心の奥にあるものは変わらずに持ち続けてほしい。そういう若者がおるかぎり、愛南町の未来は明るい。彼らより少し早く生まれた私たちは、その芽を摘んでしまわんようにドンと構えとかんといけんね。 (テノヒラkiku)



御荘文化センター図書室より

## “7月の新着図書ピックアップ”の紹介

### 【児童書】

『天の川のラーメン屋』

富安 陽子 (作)

講談社 (発行)

シンくんがおつかいで、ラーメンに欠かせない特製ヤキブタを買いにいった帰り道、不思議なおじいさんに話しかけられます。おじいさんは特製ヤキブタを譲ってほしいと言いますが、シンくんは断ります。なのに、家に帰ってみると、ヤキブタは跡形も無く消えていました。ヤキブタはどこに？



### 【移住日記】

『現代アートを続けていたら、いつのまにかマタギの嫁になっていた』

大滝 ジュンコ (著)

山と溪谷社 (発行)

友人に「マタギと飲もう」と誘われ新潟県村上市山熊田のマタギの集落に赴いた著者。山と熊と田しかない山熊田の自然と文化にひかれて移住を決意し、マタギと結婚。羽越しな布(うえつなふ)の復活に向けて奮闘する令和の傑作移住日記。



御荘文化センター図書室では、毎月「御荘文化センター図書室だより」を発行しています。

図書室だよりを通じてピックアップ図書以外の新着図書情報やそのほか新しい情報を皆さまに発信しています。町のホームページにも掲載していますので、ぜひご覧ください。



愛南町  
ホームページ